

定住自立圏構想

# 中心市宣言書



平成29年12月22日

飯塚市

# 中心市宣言

我が国は、すでに人口減少社会に突入しており、2015年に約1億2,709万人であった人口は、2053年には1億人を割り込み、2065年には約8,808万人にまで減少すると予測されています。さらに地方圏では、東京圏をはじめとする大都市圏への人口流出が続いており、地域経済の縮小、担い手の高齢化による地域コミュニティの崩壊など、より深刻な状況となることが予測されています。

飯塚市、嘉麻市、桂川町の2市1町の嘉飯圏域においても同様であり、毎年約1,400人もの人口が減少しており、2015年に181,535人であった人口は、2065年には115,781人にまで減少すると予測されています。

嘉飯圏域は、面積369.32km<sup>2</sup>で福岡県のほぼ中央に位置し、東は関の山、西は三郡山地、南は古処山地に囲まれ、全体の約3分の2は森林と耕作地からなっています。周囲の山地に源を発する河川は、多くの支流を集めて遠賀川となり、北流しています。山林や河川流域に広がる水と緑が豊富な地域です。

歴史としては、江戸時代は、長崎街道の宿場町、また黒田藩の出城である益富城の城下町としても栄えていました。明治から昭和30年台前半までは、日本の経済を支え、日本一の産出量を誇った筑豊炭田の一角として繁栄し、1955年（昭和30年）の人口は約332,000人にもなりました。その後、国のエネルギー政策の転換を受け、相次ぐ炭鉱の閉山、炭鉱労働者の離職により、10年後の1965年（昭和40年）には、人口は約210,000人となり、約37%もの人口が減少するなど、急激な衰退を経験しています。

この危機的な状況下においても嘉飯圏域の自治体や各種民間団体が連携し、地域の浮揚策としてJR筑豊本線及び篠栗線、国道などの交通のインフラ整備に取り組みました。また地域住民に向けた行政サービスの充実、効果的で効率的な行政運営の確立などを目的として、消防、救急医療、衛生処理施設の運営など、様々な連携事業を進めてきました。

飯塚市は、嘉飯圏域からの人口流出を抑制し、地域の活力を維持し続けていくため、歴史的、地理的に、結びつきの深い、嘉麻市、桂川町とさらなる連携を強化し、定住自立圏構想に基づく「嘉飯圏域定住自立圏」の形成を目指し、中心市として多様な都市機能の充実に努めるとともに、将来にわたり圏域の地域住民が安心して暮らし続けていくことができる地域づくりと、その魅力向上に取り組んでいくことを、ここに宣言します。

平成29年12月22日

飯塚市長 片峯 誠

## 1. 飯塚市における都市機能の集積状況

飯塚市は、県内 4 番目の人口を有する筑豊の中心的な都市であり、市内には地域の中核的な医療、教育、観光、商業などによる各種サービスの機能、その他行政及び民間分野における都市機能が立地しており、定住自立圏を形成するための中心市として概ね次のとおりの機能が集積しています。

分野	都市機能	主な施設名
医療	公的医療機関	飯塚市立病院
	初期救急医療機関	飯塚急患センター
	第二次救急医療機関	飯塚市立病院 麻生飯塚病院 明治記念病院 児嶋病院 社会保険二瀬病院 三宅脳神経外科病院 医療法人社団親和会共立病院 済生会飯塚嘉穂病院
	第三次救急医療機関	麻生飯塚病院救命救急センター
	総合周産期母子医療センター	麻生飯塚病院
	市内医療機関	病院 13、診療所 114 歯科診療所 79
福祉	高齢者福祉施設等	養護老人ホーム 1 特別養護老人ホーム 16 介護老人保健施設 6 介護療養型医療施設 1 老人福祉センター 1 在宅介護支援センター 7 地域包括支援センター 7
	障がい者支援施設	指定障がい福祉サービス事業所 延べ 174 障がい児支援事業所 延べ 31
	児童福祉施設等	保育所（園） 31、（うち認可外 5） 認定こども園 4 子育て支援センター 4 児童センター 20

分野	都市機能	主な施設名
教育・文化・スポーツ	大学	(国立) 九州工業大学情報工学部 (私立) 近畿大学産業理工学部 (私立) 近畿大学九州短期大学
	高等学校	(県立) 嘉穂高等学校 (県立) 嘉穂東高等学校 (私立) 飯塚高等学校 (私立) 近畿大学附属福岡高等学校
	文化施設・スポーツ施設	飯塚市文化会館(イヅカコスモモン) イヅカコミュニティセンター 飯塚市歴史資料館 飯塚第1体育館 飯塚第2体育館 健康の森公園 穂波体育館 穂波 B&G 海洋センター 筑穂体育館 庄内体育館 穎田体育館
	図書館	飯塚図書館 ちくほ図書館 庄内図書館 穂波図書館 穎田図書館
観光・娯楽	史跡・文化財等	旧伊藤伝右衛門邸 嘉穂劇場
	資料館	飯塚市歴史資料館
商業	大型商業施設	店舗面積 1,000 m <sup>2</sup> 以上 : 42 施設
公共交通	鉄道 (市内の駅数 11)	JR 筑豊本線・篠栗線 JR 田川後藤寺線 JR 原田線
	路線バス等	西鉄バス JR 九州バス 飯塚市コミュニティバス 飯塚市予約乗合タクシー

行政機関	政府関係の機関	福岡法務局飯塚支局 飯塚税務署 飯塚労働基準監督署 ハローワーク飯塚 福岡地方裁判所飯塚支部 福岡家庭裁判所飯塚支部 飯塚簡易裁判所
	県の機関	飯塚・直方県税事務所 嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所 飯塚県土整備事務所 飯塚農林事務所 福岡県警察飯塚警察署

## 2. 都市機能の利用状況

### (1) 医療施設

飯塚市は、病院と一般診療所を合わせ 127 施設が立地しているとともに、飯塚市、嘉麻市、桂川町の 2 市 1 町で運営している飯塚急患センターを市内中心市街地に設置するなど、圏域住民の安全・安心な暮らしを支えています。

更に、同市街地には、第三次救急医療施設（重篤な救急患者に対し高度な救急医療を総合的に提供する医療施設）として麻生飯塚病院が指定されています。また、麻生飯塚病院は、リスクの高い妊産婦や新生児などに高度な医療を提供する「総合周産期母子医療センター」に指定されており、広域的な医療機能の提供が行なわれています。

■麻生飯塚病院の利用状況（平成28年度延べ利用者数）（単位：人）

区分	住所別				
	飯塚市	嘉麻市	桂川町	その他	合計
外来患者数	208,114	59,966	20,131	178,210	466,421
比率	44.60%	12.90%	4.30%	38.20%	100%
入院患者数	136,093	42,829	13,965	132,299	325,186
比率	41.90%	13.20%	4.30%	40.70%	100%
合計患者数	344,207	102,795	34,096	310,509	791,607
比率	43.50%	13.00%	4.30%	39.20%	100%

■飯塚市立病院の利用状況（平成28年度延べ利用者数）（単位：人）

区分	住所別				
	飯塚市	嘉麻市	桂川町	その他	合計
外来患者数	95,396	16,396	8,849	5,402	126,043
比率	75.70%	13.00%	7.00%	4.30%	100%
入院患者数	52,773	9,243	5,044	2,678	69,738
比率	75.70%	13.30%	7.20%	3.80%	100%
合計患者数	148,169	25,639	13,893	8,080	195,781
比率	75.70%	13.10%	7.10%	4.10%	100%

■麻生飯塚病院救命救急センターの利用状況（平成28年度延べ利用者数）（単位：人）

区分	住所別				合計
	飯塚市	嘉麻市	桂川町	その他	
年間利用者数	15,209	4,136	1,521	12,009	32,875
比率	46.30%	12.60%	4.60%	36.50%	100%

■飯塚急患センターの利用状況（平成28年度延べ利用者数）（単位：人）

区分	住所別				合計
	飯塚市	嘉麻市	桂川町	その他	
年間利用者数	2,778	590	231	510	4,109
比率	67.60%	14.40%	5.60%	12.40%	100%

(2) 教育・文化・スポーツ機能

飯塚市には座席数 1,500 席以上の文化会館施設（イイツカコスモスコモン）をはじめ、広域的に利用される高度な文化・学習・体育機能が集積しています。

また本市には、九州工業大学、近畿大学、近畿大学九州短期大学の 3 つの大学が立地し、3 大学で約 4,200 人の学生と約 400 人の教職員が在籍しており、県内でも有数の学園都市を形成し、高度な研究開発や将来を担う人材育成が行われています。

■主な施設の利用状況（平成28年度）

名称	利用件数	入館・利用者数
飯塚市文化会館（イイツカコスモスコモン）	1,420件	264,511人
イイツカコミュニティセンター	3,470件	81,255人
飯塚第1体育館	1,637件	49,361人

(3) 商業・娯楽機能

飯塚市には多くの商店が軒を並べる中心商店街をはじめ、市内各所に大手スーパーや家電量販店、ファミリーレストランなどの店舗や、郊外型の大型商業施設が立地しており、圏域住民の暮らしを支えています。

■商業の概要

区分	商店数	従業員数	年間販売額（百万円）
卸売業	257店	1,808人	86,747
小売業	1,017店	6,822人	124,613
合計	1,274店	8,630人	211,360

（出典）：経済産業省「商業統計調査」（2007 年まで）

総務省「経済センサス」（2012 年）

(4) 公共交通機能

飯塚市は、福岡県のほぼ中央に位置し、北九州市と筑紫野市を結ぶ国道 200 号、福岡市と苅田町を結ぶ国道 201 号及び大分県日田市と北九州市を結ぶ国道 211 号が通るとともに、JR 黒崎駅と博多駅を結ぶ筑豊本線と篠栗線を含む福北ゆたか線、JR 田川後藤寺駅と新飯塚駅を結ぶ田川後藤寺線及び JR 桂川駅と原田駅を結ぶ原田線が通っており、交通の要衝となっています。

これらの交通機能は、圏域の公共交通の中心的役割を担っており、中心市街地



に立地する飯塚バスターミナルの機能を含めて、圏域住民の暮らしに係る利便性向上のほか、拠点間ネットワークの形成に大きく寄与しています。

■市内の主な駅の年間乗降客数（平成28年度）

駅名	乗降客数	
	乗	降
J R 新飯塚駅	1,618,408人	1,586,194人
J R 飯塚駅	413,886人	406,335人
J R 筑前大分駅	267,324人	257,454人
J R 鯉田駅	141,885人	137,863人

### 3. 飯塚市への通勤通学者の状況

近隣市町から飯塚市への通勤、通学する住民の状況は、次表のとおりであり、嘉飯圏域の中心的な機能を担っています。

市町名	人口	各市町に常住する 従業者・通学者数	飯塚市へ通勤・通 学している人数	通勤通学 割合	圏域構 成団体
嘉麻市	38,743人	19,555人	4,797人	24.50%	○
桂川町	13,496人	7,526人	2,334人	31.00%	○
小竹町	7,810人	3,803人	746人	19.60%	—

\*数値は、平成27年国勢調査結果による数値

\*通勤通学割合は、飯塚市に通勤・通学する従業者・通学者数を各市町に常住する従業者・通学者数(従業地・通学地「不詳」を除く。)で除して得た数値

### 4. 展開しようとする取組

嘉飯圏域定住自立圏構想では、中心地域と近隣地域がそれぞれの地域特性を活かしながら相互に役割を分担し、圏域全体の発展と地域住民の生活機能の利便性向上に向けて、次のような取組を推進していくことを想定しています。

#### (1) 生活機能の強化

##### ① 医療

圏域の住民が、安心して暮らし続けていけるように、圏域内の病診連携を図りながら、救急医療及び地域医療体制の充実につながる取組を推進します。

##### ② 福祉

圏域の高齢者や障がい者が、住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らし続けていけるように、地域包括ケアシステムの構築をはじめとし、地域福祉の充実につながる取組を推進します。

##### ③ 子育て支援

圏域の子育て世代が、安心して子どもを産み育てることができるように、子育ての支援体制の充実につながる取組を推進します。

#### ④ 教 育

圏域全体での小・中学校の学力向上をめざす連携事業に取組とともに、公共施設の相互利用など、圏域住民の生活における利便性向上につながる取組を推進します。

#### ⑤ 産業振興

- ・圏域地場産業の振興によって、地域の活性化と発展につながる取組を推進します。
- ・九州工業大学、近畿大学との包括連携協定のもと、産学官の連携による地域産業の活性化をめざす取組を推進します。

#### ⑥ 環境衛生

環境衛生事業の安定的で効率的な運営につながる取組を推進します。

### (2) 結びつきやネットワークの強化

#### ① 地域公共交通

圏域住民の生活にかかる利便性向上を図るため、地域公共交通の維持・確保につながる取組を推進します。

#### ② 圏域内外の人の交流と移住・定住の促進

- ・圏域における人口減少問題に対応するべく、圏域の魅力発信を通じ、移住・定住につながる取組を推進します。
- ・圏域の観光資源を活用する広域観光を振興することによって、交流人口の増加につながる取組を推進します。

#### ③ 消防・防災

圏域住民の安全・安心な暮らしを確保するため、広域での消防・防災体制の安定的で効率的な運営につながる取組を推進します。

### (3) 圏域マネジメント能力の強化

#### ① 人材育成

圏域住民へ提供する行政サービスの質の向上を図るため、圏域内自治体職員の資質向上につながる取組を推進します。

#### ② 職員交流

圏域内自治体間の連携強化を図るため、圏域自治体の職員交流、専門職員派遣などの取組を推進します。